

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コトボ幡ヶ谷九〇四 電話(03)337714649 FAX(03)329915367
振替 東京0158431 労金 東京労金本店No1154163

購読料 月額500円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■ 巻頭言 ■

コメ自由化、消費税率アップ、小選挙区制

小選挙区制導入と社会党のゆくえ

—— 解党必至、必要な「統一司令部」——

特集 「護憲の社会党を再生する全国ネット」 総会報告 (一)

第一部 記念講演

司会者あいさつ 社会党「再生」への組織つくる

開会あいさつ 細川の殿様の家来でいいのか

激励あいさつ 「七人の侍」に勇氣、つぶせる

記念講演 政治改革と社会党

第二部 「全国ネットワーク」 結成総会

よびかけ人あいさつ 「毒消し」のため、たちあがる時

よびかけ人あいさつ イデオロギー対峙で政治はきれいに

アドバイザーあいさつ 小選挙区制は少数思想を排除

コント・小選挙区制

—— 忘年会やクリスマス会で上演しよう ——

2
3
6
6
7
9
13
14
16
16

旬刊 社会通信

NO. 559

一九九三年二月二日

一九九三年二月二日発行
毎月一日・十一日・二十日三回発行

■ 巻頭言 ■

コメ自由化、消費税率アップ、小選挙区制

ずっと前、烏（からす）が好きな人はいないだろうとの投稿を載せたら、「山川均が好きだったよ、可愛いよ」とのご指摘をもらった。「編集稼業は難しい」と思わされたのだが、爬虫類（とりわけへび）のお好きな方は数少ないだろう。蛇（へび）のような眼をお持ちなのが、七十数パーセントの支持率を誇る細川の「バカ殿様」だ。

バカ殿というゆえんは、政治改革だけでも容易じゃない（海部、宮沢内閣はこれでつぶれた）のに、消費税率アップ、コメ自由化をも、おやりになるといわれるからだ。政治改革＝小選挙区制導入は衆議院は通過したものの、参議院は十二月七日現在、審議の目途もたっていない。会期延長は必至。しかも、社会党議員の反対派衆議院での「七人の侍」の勇気ある行動に今や三十名をこえるともいわれるし、二院クラブ無所属を加えれば、「否決」の可能性が強くなった。

小選挙区制反対に勢いをつけたのは、コメ自由化だ。自民、社会の代議士の圧倒的多くは農村を地盤とする人たち。小選挙区制導入がいかに総資本＝支配階級の意図であろうとも、個々の議員のバッチと関係するとあつては、総資本の意図がストレートに貫徹するとは考えがたい。猿は木から落ちても猿だが、議員はバッチを外せば、金丸に象徴されるようにタダの人であるからだ。

細川首相はコメ自由化を決断したという。その内容は(1) 非貿易的関心事項の重要性を考え、以下の三つの基準を満たす農産物については、ミニマム・アクセス（最低輸入量、本来なら三%から五%に拡大）を四%から八%への拡大に引き上げることを条件に関税化（自由化）の特例措置（六年間関税化を実施しないことができる）が認められる。(2) 特例措置を七年目以降も継続するか否かについては、実施時期終了一年前の見直し作業で交渉される。(3) 国内の食糧輸入の際に輸出制限を行うとする国は、輸入国の食糧安全保障に与える影響について十分な配慮を払うとともに、協議・通報などを行う」というものだ。

「ミニマム・アクセス」とは何か。完全な自由化に道を拓くものだ。というのは、自由化してからはじめは高い関税率を輸入国に認めるとしながら、輸出国が確実に売り込めるよう、一定量の輸入を輸入国に保証させることであるからだ。

七年目に「見直し作業」をするというが、これでは七年後からの本格的な関税化（自由化）は必至。しかも「輸入国の食糧安保に配慮」というが、コメ輸出で貿易収支改善に執念をもつ、アメリカの「国益」が優先されることは確実だ。コメは国際商品としては未熟なだけに、ほんの少しの貿易量の増大で、その価格高騰はすさまじくなるからだ。

日本は弥生時代以来、コメ作りとともに文化、国土を形成してきた。農村の荒廃は国土の荒廃につながる（吉岡和子著『コメの文化』、NHKブックス）。

コメの輸入自由化には、社会党の農水部会の反発がとりわけ強く（自民党も同じ）、細川連立政権からの離脱もとの意向だ。これが、参院の小選挙区制論議に大きな影響を与えている。「当選は中曽根さんのおかげです」との名文句をはいた岩手・小川仁一氏の消費税導入、その税率アップとも相まって。

小選挙区制導入と社会党のゆくえ

——解党必至、必要な「統一司令部」——

小選挙区・並立制が社会党にどのような影響を与え、政界再編第二幕にどうつながるかについて考えてみたい。

周知の通り、小沢戦略の重要な柱に、小選挙区制を通じて、社会党をつぶし、保守二党制にして強権政治を確立するという事がある。この戦略を承知で自らの生き残りと出世の為に社会党を自滅させ、民主主義を圧殺する小選挙区・並立制推進に回った山岸、田辺、山花、赤松、久保らは、その罪、万死に値する。また、無定見に状況に流され、全国大会での定数二五〇・二五〇を崩さないという決議を踏みにじった村山執行部も強く弾劾したい。

並立制と社会党

それでは、並立制が成立したらどうなるのか、社会党として並立制で選挙をすると仮定して考えてみよう。

(1) 小選挙区では、自民党対連立与党という争いになるから、社会党独自候補は、立てられない。与党統一候補には、現職優先だから、社会党前職議員は、候補になれず、現職議員でも非公認・無所属の岡崎氏や並立制に反対投票した岩垂氏は、外される。護憲派は、すべて統一候補から外されると考えた方がよい。万一直心的な人が統一候補になっても新生党等の支持者は、むしろ自民党に投票するであろう。

(2) 比例区も小選挙区に社会党独自候補が出てないと比例区の票が伸びないのは、明らかである。まして最近の社会党の醜態を見て、社会党にどれだけの人が投票するのだろうか。また、比例区は、小選挙区の候補者と重複立候補となるから、小選挙区候補者のすべり止めと一部前職右派議員の救済のみ活用され、護憲派は、ここでも締め出される。そして小選挙区も比例区も小沢とその意を受けた党幹部によって候補者は、決められるということだ。

ところでこれは、小沢と示し合わせた、再編・解党派が社会党として一回は、並立制で選挙をやるなかで社会党と護憲派をつぶしてから保守党と合同するのではないかという一部で良く言われた推測どおりならばの話である。この可能性は、今でもある。しかし、政界再編第二幕の流れは、思った以上に早い。もし並立制が成立したら、再編第二幕は、すぐにでも本格化しそうである。すでに自社両党とも分裂必至と言われているのである。

①ひとつには、社会党がもう十分死に体になっており、わざわざ並立制による総選挙をへなくとも解党できる見こみがついたこと。

②もうひとつの狙いの総選挙を通じて護憲派を解体して、社会党解党時に党再建をさせないという企みが見ぬかれたと解党派が悟ったことである。

③そして再編の流れの早いなかで、あえて破滅的に評判の悪い社会党で選挙をやる事は、社会党と心中をすることになるので、逃げたがっているからだ。

政界再編第二幕へ

では、政界再編第二幕は、どうなっていくのか。社会党を中心に考えたい。

- (1) 並立制が参議院で否決された場合、(可能性は、皆無ではなく、大きくなっている) 中選挙区のまま総選挙となるが、その際、自社両党の政界再編派が脱党して、これを引き金にして再編第二幕が始まる。むろん連立与党は、グチャグチャだ。
- (2) 並立制が成立した場合、党内の多数派は、連合主流の支持の下、新生党と一緒にいる者、日本新党・さきがけ等と一緒にいる者がそれぞれ出ていく可能性が高まった(横路・山岸新党の報道もある)。つまり、護憲派の置き去りである。ただし、護憲派に党を明け渡していくのは、再編派の諸君も本意でないであろうから、次ぎの(3)のケースの可能性も強い。

(3) 来年秋から九五年一月頃に予想される総選挙の前までに臨時大会か中央委員会で保守新党との合同と社会党の解党を決定して、「正規の手続きをへて」護憲派と訣別するやり方である。これも護憲派の置き去りの一種だ。

(4) これは、先に述べた理由で可能性がやや少なくなったが、(楽観は、出来ない!) 社会党のまま並立制での選挙をやらせて社会党をつぶし、護憲派を弱体化してから保守党に合同しようというケースである。これは、護憲派がいよいよという時には新党も辞せずの構えをもっていれば、解党派は、自分も危ないのだから、あきらめて保守新党へ走るであろう。本来出ていくのは、再編・解党・改憲派の連中であるべきなのだから。

「護憲派」の方針

では、この(1)〜(4)各ケースの場合、護憲派は、どのように決断したらよいのか。(1)から(3)までは、改憲派⇨再編派が護憲派、右派、市民派、環境派といった人々を置き去りにしていくわけだから、私達は、社会党を再建するしかないのである。その際、社会党の多数派、連合の主流派が保守新党へ行くからと、これに追従してはならない。なだれ込み論や潜り込み論は、ナンセンスであり、政治的な死を招くだけだ。再編・解党派は、保守党との合同と同化を「社民リベラル」と言っているが、社会党の戦後の平和と民主主義、生活と権利を守る闘いは、マルクス主義的社会的主義の要素を除けば、元々社民リベラルの要素は、強かったのである。少なくとも労働条件や福祉の切り下げをする社民や改憲・海外派兵そして小選挙区制を認めるリベラルなどないことを確認しておきたい。

では、護憲の党の再建という場合、その党は、どういう党の性格でどういう組織形態か、社会党と名のべきなのか、議論をしなくてはいけない。

また、小社会党や新左派社会党という形ではなく社会民主主義者はもちろん、市民運動やリベラルな人々を幅広く結集できないのか、むしろ徹底した民主主義政党として新党的出直しが必要なのではないのか。

(4)のケースでは、好むと好まざるとにかかわらず、総選挙前に護憲新党をつくらざるを得ない(可能性は、やや低まったとはいえず、油断は出来ない。我々が少数で出ていくケースも当然覚悟しなくてはいけない)。なぜなら岩垂、岡崎氏らの護憲派議員や前職議員の

立候補を保障し、かつ当選させるには、新党しかないからである。それには、現職衆議院議員がおり、また、国会議員が五人以上いる総選挙前しかない。新党は、五人以上の国会議員を確保出来れば、小選挙区と比例区で重複立候補ができ（供託金は、各三〇〇万円・三〇〇万円である）、そうすれば三割をクリヤーすれば、議席を確保できる。逆に確保できずに並立制選挙で社会党が潰された後で新党をつくっても政党要件を満たせず、小選挙区では、政見放送もできず、ピラ等も差別される。比例区では、三〇人候補者を立てねばならず、供託金が一億八千万も必要だ。おまけに既製政党には、政党助成金までついていく。そして重複立候補が出来ず、政見放送もないのだから、小選挙区と比例区の連係プレーもままならず、しかもブランクがあれば、三割をクリヤー出来るかわからない。

まさに第一回の小選挙区・並立制選挙が事実上新党のラストチャンスなのである。そして新党ができなければ、九五年参議院選で國弘氏、いとう氏らの再選も出来ない。田氏も東京選挙区で苦戦するであろう。もし、革新的進歩的政党が共産党だけになり、総保守党化したら大変である。どうしてもやらねばならない時には、組織決断をしなくてはならない。また、相手側は、わざと総選挙前まであいまいに引き伸ばして無準備のまま、新党を選挙戦に突入させる作戦に出かねない。準備期間も考えれば、相手側がズルズル引き伸ばし作戦に出て来た場合、一定のタイムリミットを設定し決断せざる得ない。

不可欠な統一司令部

以上のどのケースになっても、適切な判断の下、組織的決断をする統一司令部が必要である。そして全国の仲間を網羅する連絡・交流・討論の場が確保されねばならない。時間的余裕はないのであり、急がねばならない。

しかし、今まで述べたように今すぐ党を飛びだすべきではない。時機尚早の新党旗上げは、味方の戦線を混乱させるだけだ。むしろ九三年宣言が通ったとしても（むろん我々は、三分の一以上を獲得して否決をめざす。その際分裂しても望むところだ）、もう少し相手の様子を見る必要がある。繰り返すが本来出ていくべきなのは、改憲・解党派の諸君であるし、できれば協議離婚をしたいくらいだ（もともとフライングをした人は、後で我々と一緒になれば良い。別々にやる必要は、ないのだから）。

当面我々は、小選挙区・並立制阻止に全力をあげねばならない。同時に自衛隊法改悪阻止やコメの自由化反対と消費税アップ反対の闘い、そして「リストラ合理化」反対の闘い等と結びつけ、また「護憲の社会党を再生する全国ネットワーク」の全国津々浦々の組織化に努めるべきであろう。それがいかなる事態にも備える事になるからである。

ただし護憲の党の再生といっても約一三万人の黨員（水増しだろうが）と百数十名の国会議員全体の社会党を再生する事は、もはや不可能である。(1)から(4)のどのケースでも残念ながら少数派から新党的出直しのなかで党の再建をせざる得ない。だからどんな場合でも新党には反対という人は、いざという時に保守新党に行くか、ノンポリになるしかない。

(4)のケースの時に護憲新党をつくる構えがなければ、(1)～(3)のケースでも社会党に残る事も、護憲の党の再建もできないからだ。(1)～(4)のどの場合も形態こそ違え、護憲の党の再建という内容には、違いがないのだ。

特集 「護憲の社会党を再生する」

全国ネットワーク 総会報告 (一)

社会党「再生」のラストチャンスに挑戦

「七人の侍」の勇気ある行動から二日後の二〇日、「護憲の社会党を再生する全国ネットワーク」結成総会がおこなわれた。その概要は第五五七号（九三年十二月一日）号に報告した。

「全国ネット」結成は揺れ動く政治、経済情勢下、歴史的可能性を秘めている。本号はその記録である。
(編集部)

第一部 記念講演

◇司会者あいさつ 平岡幸雄（神奈川）◇

社会党「再生」への組織をつくる

今日は雨のなかにもかかわらず実は大勢の方が全国よりお越しいただきまして本当にありがとうございます。十一月十八日は日本の悪い意味で歴史が記憶された日とされています。あの日に勤労国民から政治が一層遠くへ行ってしまうました。日本の民主主義の首が決められてしまいました。もちろん私たち日本社会党も「服毒自殺した」と記憶しなければなりません。ですが何事も悲観ばかりしておられません。採決当日も衆議院では七人の社会党籍を持った国会議員の方々が政府案に賛成の投票をしませんでした。ある方は欠席、ある方は堂々と否決票を投票しました。

このように滔々たるファッショ化の中で着実に私たちの仲間が反撃に立ち上がっております。本日もこのように大勢の方々にお集まりいただきました。ここに民主主義再生の芽があると思うわけであります。このたび、大勢の方々のご努力で「護憲の社会党を再生する全国ネットワーク」が結成されます。本日を機して日本の民主主義を再生する、社会党を再生する組織を創ってまいりたいと思います。

◇開会のあいさつ 関晴正（前衆院議員、よびかけ人）

細川の殿様の家来でいいのか

全国から「日本社会党はどうなったのか」と言う声に支えられて、放置しては置けない、日本社会党の本来のカタチが生かされるような政党にたち変わらなくてはいけないと言う願いを持つ多くの同志の方々が寄り合い集いまして、日本社会党を護憲の党として再生するの願いに立っての「全国ネットワークを結成しよう」とこんなにとくさんの方々にお集まりいただいた事に、呼びかけ人一同を代表して敬意を表したいと思ひます。

一月十八日、堂々と反対したわが同志、この同志の力が社会党を思う同志の方々に大きな力になったと思います。このあと闘いは参議院に移るでありましょうが、この参議院で社会党が初めて臨んだときの態度はなんであったのか、併用制でありました。二五〇対二五〇ではなく、比例制度三〇〇対小選挙区二〇〇でありました。実質は併用制でいけば

比例制度であると説明したのは左近君でございました。

国会対策委員会の中で論議がありました。一つの間に。かすっさり変質してしまつて村山委員長が私たちに説明したのとは異なる政策に踏み込んでしまいました。大きな誤りがここにあつたのであります。少なくとも大会の方針、これまで主張してきた方針を一八〇度転換して参加するなどと言うことは正常な人間のする事ではないはずであります。「山花が狂つたのだな」、どうしてこのような事をするのか、社会党議席は現在七十余であります。今度の選挙を行えばどうなるだろうと大変心配であります。

でもその時に国からの助成金があるから、この金は今まで集めた党の金よりも大きな金額になるから、同じ金を持たせたなら党が負けることはないであろうとの話まで出ていたのであります。金に魅せられた申しましようか、そこに情けない姿が露呈したのだと思ひます。「金丸信に象徴される汚職」、これをなくするのが今度の政治改革の第一歩でなくてはならないのに、これを脇に追いやり制度改革をしました。中選挙区制のどが悪いのであります。中選挙区制であれば多様な国民の意思が反映されて国会の最高機関が健全な運営をする事になるのではないのでしょうか。大選挙区でも良くない、小選挙区でも良くない、歴史的経験とそれぞれの経験に照らし合わせて決めだされた中選挙区制を、これを護るものは「守旧」派とまるで悪いものの主張であるかのように片づけてしまいました。

しからば「守旧」と呼ばれる者との間にどれほどの論戦がありましたでしょうか、何もなかつたではありませんか。思えば思うほど長年とくに新憲法下のもとに日本社会党が国民とともにあり、国民とともに政治を創つて行くんだとやうことで闘つてきた同志が、この四月にどれほど驚きどれほど憤慨し、こうしては置けないと言ふ声があつたはずであります。社会党が今度の闘いで三%以下にならないという保証はまったくありません。自分たちの創つた法律で自滅することを平気ですむというのはどう言ふ事でしょう。何のため我々は憲法を生かさなければならぬ、何のために我々は憲法とともに政治をやるのかと言つてきたのかわからなくなつてきたのが現状ではないでしょうか。

ここでどうしても社会党を生き返さなければならぬ。この願ひに立つ国民は絶対多数だと思つております。少なくとも社会党の中では多数だと思つております。細川のような殿様の家来に成り下がつて、従僕よろしく成り下がる事はもう辞めなければなりません、辞めさせなければなりません。そのために我々はここで決起しこのネットワークを広め強めていくことによつて頑張りたひものだと思ひます。

◆ 激励あいさつ 國弘正雄（参議院議員） ◆

「七人の侍」に勇氣、つづせる

小選挙区制を何とかしてぶつ潰したいと思ひ全国いたる所を辻説法して歩いております。自分が日蓮聖人になつたかと思ふぐらいに懸命に微力をつくしておるところでありますので冒頭に時間を拝借してご挨拶申し上げます。

この小選挙区制が今の形で通つてしまえば日本は小沢一郎という男によつて一党ないし一人支配されてしまふ、非常に危険な所にあると考へています。もしこの法案が通つてしまふ事になれば、国民の多くの人が心配しているやうな消費税三%は言うにおよばず一〇%になるであります。私たちが懸念をしています自衛隊機の海外派遣も何の抵抗もなしに実現してしまふであります。自衛隊の国軍化いわゆる国際法で認められた正規

の軍隊、一人前の軍隊に格上げされるというのも必至の情勢でありましょう。国連のPKFに国軍化された日本軍が全世界いたる所に派遣されるということも、既成の事実になるかと思えます。

北海道、東北の農村地帯にも伺うんですが、米の自由化の問題が大きな心配の種になっていますけれども、小沢の一人支配の下では簡単に通ってしまうであろうと思います。小選挙区制自体の選挙制度の大きな欠陥というのはありますけれども、それだけではなく小選挙区制が通るかも知れないということを書きわめて政治的な視点に立って捉える必要があると思います。私たち参議院の仲間は腹のすわった大先輩が多くいらっしゃいますから、この間の岩垂さん、岡崎さんを含めて七人の方が「NO」と言う意思表示をしてくださった事に大変な感銘を受けまして、衆議院の皆さんがそこまで頑張ってくださいただから参議院はあの悲壮な決意に応えていかなければならないと決心をしております。

この闘いは始めたころには勝つ可能性は〇%であったと思いますが、今は少なくとも五〇%近い可能性を得るにいたった。参議院で我々が頑張れば「ひよっとすればひよっとするかも」しれないし、ひよっとさせなければならぬと思っております。限りないご声援をいただけるように心からお願いを致します。

小選挙区制が通ったという事になりますと、「近衛文麿の大政翼賛会」と似たような状況が、孫にあたる「細川首相」によって行われる可能性があると思っております。大政翼賛会の再来という可能性を私は本当に恐れるわけです。昭和十五年（一九四〇年）でありましたが、この大政翼賛会が生まれたときに「大政翼賛会のバスに乗り遅れるな」「近衛新体制のバスに乗り遅れるな」「ヒトラーのバスに乗り遅れるな」と言うことで、日本国民があわてにあわててその方向に群れて雪崩（なだれ）で行ったあの事をありありと覚えております。その結果は日本が世界を相手にしていった戦争であり、日本の敗北で結実致しました。

「バスに乗り遅れるな」と言うのはある種の日本の民族性ではあるまいか。そこで現在の「小選挙区制のバスに乗り遅れるな」と言う声が社会党すら巻き込んで、このバスがどこに行くのかまったく不案内のままに慌ててそのバスに乗ろうとしているのが実状であろうと思います。「大政翼賛会」は資金難のために政府の予算を貰わなければならなくなつたと言うことでありました。官僚の思うままになる「大政翼賛会」なるものが誕生したのであります。今とあまりにも似てはいないのか。民政党、社会大衆党という既成の政党が先を争って店じまいをした。皆が忠誠を誓うために先を争って解党の道を争った事実と、今の「社会党すら」と言う現状とのあいだに多くの類似点を見いだして黯然（あんぜん）とせざるを得ない。

参議院の戦を闘ううえでの数は「企業秘密」で潰される可能性がありますから申し上げませんけれども、社会党あるいは無所属と言われる人方のなかに我々と憂いを等しくする人がたくさんいる事だけはご報告いたしますし、私が去年の参議院選挙で東京地方区で相まみえた保守党議員も「小選挙区制には反対だ」と明確にしております。小異は残して大道に着かなければならないと思っております。

◇記念講演 高島通敏(立教大学教授)◇
政治改革と社会党の課題

社会党どうした!?

六〇年安保当時から色々な市民運動にかかわっております。市民運動も忙しくなっております、あちらこちらに招かれて話をさせていた দিয়েおります。そこで起こる声はきまっております「社会党はどうしてしまったんだろう、私たちの声を代弁してくれる政党はないのだからか」と言う問いです。八九年の土井さんの選挙のとき従来の社会党の倍以上の票が出た。その票は市民運動、女性運動を中心に全国からわき起こった「社会党期待の票」だった。いまその票の行き場がない。細川新政権は日本に稀に見る高い支持率を世論調査では示していますが、何とその政権誕生の選挙は戦後最低の投票率で若者たちは客観的な興味で「細川さんカッコいい」と言うくらいで、世論調査では支持の「〇」くらいはするかもしれませんが、それ以上に護憲の社会党というものに期待をよせてきた人達の多くはしられて、投票の行き場がなくなつてそっぽを向いているのが実状だと思います。

政治改革問題というものが五年前に始まった時に、ただちに選挙制度改革と結び付けられ、先の竹下首相が「中曽根首相は国際社会に対応する行政改革をやった、私は政治改革をやりたい、政治改革とは選挙制度改革である」と言ったときに、リクルート事件などに結びついて突然起きたものではなくして長期計画のなかにあると理解したわけです。

「政治改革」の本質

いったいこれはどう言う潮流の下に理解すべきであろうか。先日の新聞の中に細川首相が「政治改革をするつもりで出てきたけれど私に背負わされている役は革命家である」と述べ懐した記事を非常に面白く読みました。だんだんに細川首相はその気になっているらしい、一〇月頃から一二月頃には思い決断をしなければならぬ、「様々な決断がやって来る」と呟き始めた。もちろん一つは選挙制度改革であると同時に米市場開放問題が迫ってきている。この状況は二年前の海部内閣の時と同じである。あの時もウルグアイラウンドは年末までに決めなければならぬ、ただ一人孤立するわけにはいかなぬと言ったことが様々な形で言われました。さらに消費税の大幅アップと言う問題、税調が「所得税減税とセット」で消費税の問題をだす。マスコミは細川首相が基本的に「GO」のサインを送ったから税調は作る気になったんだと報じている。PKOに絡んでの自衛隊輸送機の海外派遣問題、自衛隊法改正問題、自衛隊の輸送機が「原則として」と言う事を隠れ蓑として堂々と海外へ出ていくと言う原案が作られている訳です。

こういうものの一番頂点に安保理事会への日本の常任理事国入りが九五五年に標準を合わせられていくと考えるわけです。すべてはそのための「土俵作り」、条件づくりであると考えていくと非常に合ってくる。この問題はアメリカの後押しで日本とドイツを常任理事国に入れるという事で浮上してきた。七〇年以來の新保守主義の潮流、それに伴う先進国内部の構造改革の一貫として日本に押し寄せてきたんだと言うふうを考えます。新保守主義の戦略はアメリカのおけるレーガン政権、イギリスにおけるサッチャー政権と共に開始されたわけですが、引き継いだのは日本の中曽根政権であった。小沢氏は選挙制度

改革をめぐって中曾根氏と仲が悪いようですけれど、思想的には紛れもない直系の弟子であるわけです。国際化の時代の国際協調を完成すべく今の細川内閣は登場しているんだと考えるわけです。

世界と日本

一体どうして様々な問題がセットとして押し寄せることになったのであろうか。この問題の始まりは七〇年代ベトナム戦争の後に国際的な地位が失墜し、アメリカの力で国際秩序を動かすことが不可能になったその時点で、さらに先進国を中心に経済成長が著しく鈍化（オイルショック以来）した時点で世界資本主義経済を建て直す、新しい国際秩序を作り直すという戦略の下に登場してきた。中心になり旗を振ったのはIMF（国際通貨基金）やGATT、OECDでありG5、G7といわれる先進国首脳会議・蔵相会議（サミット）です。

戦略は第一に、国際的に自由競争の態勢を確立することで世界は必然的に先進諸外国の協調、対立、抗争という時代に移っていく事を放置すれば第二次世界大戦前夜のような「ブロック経済」に向かうだろう。ヨーロッパではECが、アメリカではNAFTAという形で困い込みを始める。日本は環太平洋経済圏を提唱した事などによる言わば危険意識です。まず世界の関税、非関税障壁を強力に引き下げあるいは取り壊し、「自由貿易体制を確立する」ことを至上命題にしたわけです。同時に世界の経済を活性化するために大企業に力を与え民間活力・経済の活性化という形でもう一度資本主義を復活したいとの視点から、それに反対する国内の政治体制、国会体制があるならばそこに手を突っ込んで直させる種類の運動だったわけです。

日本については工業製品についての関税化はほとんど片づいた訳ですが、日本の農産物の壁、農産物の市場を開放させる。八八年の牛肉・オレンジの後は「米」に焦点を合わせられていました。世界が日本に特例を残すのかと突く、だからどんな形にしろ残してはならないと言うわけです。「五五年体制」の下で日本の保守政党は「資金は財界、票は農村」で、しかも農村は一对三の過剰代償ということを高裁判所に認めさせる事で自民党の政治基盤を維持してきた。この問題は必然的に政界再編成と結びつかざるを得ないわけです。消費税の導入も世界先進国の潮流から始まった、高額所得者の所得税を引き下げ高額所得者にやる気を出させる事で消費を高めマーケットを活性化させる。その代わりを確実に取れる消費税から取っていく、ヨーロッパの場合はどこかが消費税を低くすればそこへ上流階級も企業も流れていってしまうので、等しくなければならぬと理由立てている。大蔵省もわかりです。

最後には七大国などと呼ばれている国に世界秩序を維持するという義務を負わせなければならぬ。つい先頃までは一番お金のあるはずの日本とドイツが政治的に阻害されてしまふのは「まずい」ので、国連安保理事会に引き込んで、同時にPKOとか将来予想される国連軍への義務を負わせる戦略が作られた。これはまぎれもなく大國支配の構造です。大國の間を協調的に維持していくことが最大の命題であるわけです。七〇年代から言われていた第三世界の問題や南北問題であるとか、大國があつてはじめて南の繁栄があると言ふ単純な思想で貰かれています。そこに冷戦の崩壊、終焉、ソ連・東歐圏の崩壊がある。

G5とかG7と言うのがそのまま国連に部隊を移すことが出来たわけで、国連問題は今

日も微妙な問題でガリ事務総長は国連中心のPKOの強化を考えていたが、これに対してアメリカは多国籍軍という形でフリーハンドを保持したいと欲して、「軍の指揮権は国連に渡さない」と湾岸戦争の際にも対立していたわけですけれど、国連は突然に力による秩序の維持に乗り出した。ソマリア問題を含めて国連対第三世界という対立構造が生まれてきている。

細川政権はアメリカ「民主党」

中曾根氏が始めた行政改革の頂点にあったのは国労潰しであったように、官営企業・国営企業を出来るだけ潰していく事であったわけです。そこを潰せば民間の活力が増えるとうたわれた。中曾根氏は消費税をやりきることができなかったもので、消費税を竹下氏が受け継ぐと同時にリクルート事件が起きた。これこそが政界再編の絶好のチャンスになると小沢氏は睨んだことでしょう。しかも八六年の衆参同時選挙で自民党は大勝した後で中曾根首相は軽井沢で有名な演説をした、「我々は左にウイングをのばした、いまや都市が自民党の支持基盤に変わりつつある」と。私はこの選挙の後で八六年体制の始まりだと言いたい。中曾根氏は本来は右の人ですから左にウイングをのばしたと言うのはおかしい感じがしますが、これは個人の発言ではなく中曾根氏の数々のブレインの長期戦略の中で生まれてきた発言であると理解されています。

都市に基盤を持つ新しい政党をつくる、選挙制度改革をやって一挙に社会党も度肝を抜くような定数不均衡の是正を行い、一対一・五でよろしいと行くと農村議員は一挙に減る。比例区をつくりそこに長老議員を張りつける。長老議員は自民党の場合すべてが農村選挙区である。それを党が指名する直属の候補者にする事で党に反乱は許さない。海部内閣の当時出された原案によって計算しなすと、自民党議員は六〇%が一挙に四〇%に落ちるんですね。でも自民党は三〇〇議席は確保するだろうと、小沢氏は「最初の選挙では自民党は大勝するさ」と言っている。そこで米市場の開放をやれば農村議員が反乱を起す、第二保守党をつくり分裂するかもしれない。過半数は足りなくなるかもしれない。そこで、田辺氏に金丸氏が言い寄った「自民党の長子である最大派閥の我々が家出するから護憲派などは切ってこい、一緒に新党をつくろう」と、都市と財界と労働組合に基盤を持つアメリカの民主党のような政党（民主党構想と名付ける）を目指したわけであります。社会党も連合山岸氏もこの構想にのらないとしばしば言っていますが、現実の細川内閣の下に生まれているのは「民主党」ではないでしょうか。

「新保守主義革命」

細川政権のやっていることは中曾根政権時代からの「新保守主義に基づく革命」です。消費税も国連問題もその他も一挙に全部片づける。農村に地盤を置いている自民党でやり切れなかったら自民党の反対派を向こうに置き去りにして実現されていると私は思う。細川首相が最初の就任挨拶で「日本はアジアに対して侵略戦争を行った」とハッキリものを言ったなとは思いましたが、アジアの新聞はどのように解釈をしたのかと言うとシンガポールの「ストリートタイムズ」は直ちに、「これは国連安保常任国入りに焦点を合わせている、そのためのアジアへの世論工作である」と解説している。日本のこれまでの歴史的関連の中でずっと私の頭の発想には浮かんでこなかった発想なんです。

衆議院の所信表明演説の中で細川首相は言葉を「侵略行為」に変えた。それを解説したのは石原官房副長官です。「戦争事態が侵略戦争だったのではない、たまたまその中に侵略行為が含まれていた」とはっきり解説している。日本の新聞はこの問題を取り上げないんですね、だから細川氏はアジアに対して二枚舌を使ったことになる。韓国との会談では自民党の右派等を納得させるために、言葉が慎重に修正されてマスコミが報道しているわけです。

一次の選挙で社会党は「三分の一」に

細川内閣がおこなっている歴史的役割に社会党が巻き込まれて行っている。なぜ社会党がこのように巻き込まれたのか、ストンと落ちる解釈がいまだに私たちにはないんです。市民運動などからどうしてこうなったのか聞かれる。日本で連立政権をつくるというのが、西ドイツの経験に照らし合わせて社会民主党が力がをつけて単独の党をつくるという状況ではない。社会党が連立政権に入ったことにより力をつけましたが、世論調査でも社会党支持率は激減の一途です。一桁の前半だと言われている。

社会党の自殺行為だと言える小選挙区比例代表並立制を飲んだばかりではなくて、党内を締めつけて勇氣ある行動をとった人達に党規処分を突き上げる状況にある。自殺行為は充分判っている筈ですが、そうであるからこそ社会党は二年前にあれほど激しく抵抗したではありませんか。私は選挙の分析を専門の一つにしていますが、八月の新聞に「この案を飲めば社会党半減は疑いなし」と書きましたが、いまや半減とは言わない「三分の一」になるかもしれないという状況だと思えます。

この案について執行部に一任すると言うのは何を一任したのか、「社会党解体を一任したのか」理由が判らない。連立内閣を作った社会党が潰したのではまずい、社会党が潰したと思われたら次の選挙で社会党は負けると思っているが、「次の選挙で社会党はないよ」と申し上げたい。筋の通った解釈は、社会党内改革派は小沢氏と一緒に官界の改革派、財界の改革推進派、学会ジャーナリズムまさに「大政翼賛会、近衛新体制」の陣立てで進んでいるわけです。あの当時は「昭和研究会」と称したのを今日では「民間臨調」と言うものがあり、学者もジャーナリストも皆巻き込まれてやっている。ジャーナリズムの世論はマスメディアの中ではもはや一色ですね。社会党にはこれに楯突くのが怖いという風潮が漲っているのではないか、楯突かないで次の選挙をやったときに社会党は残らないと言うのが私の基本的な判断です。

問われる社会党の存在価値

有権者の側からしても宮沢前首相に言われた通りに、社会党がこれほどまでに主張を変えらるというのであれば「社会党の存在価値」があるのだろうか、次の選挙で「何を主張」するのか。三ヶ月の間にどんどん変えられ、その後に選挙があつて社会党は慙懃自重（いんぎんじちよう）して「社会党は今まで嘘をやっていました」と、半年前の主張をお蔵から出してするつもりなのか。有権者はどうしてそんな社会党を信用できるでしょうか、有権者の不信は昨年のPKO問題から始まっている。あれほど大見得を切って反対していたのに次の選挙ではPKO賛成の候補を東京では推薦しているではないか。

平和憲法は国際協調の原点

社会党のクライシスは単に選挙制度によるクライシスだけではなく、アイデンティークライシスだと思っています。アメリカ流に言えばクレイジーデビルギャップ（嘘つき）と言うことです。嘘つきで信用できない社会党は何を主張している政党か判らない、社会党が言っているのは全部パフォーマンスであると言う感覚が私の付き合っている市民・住民運動の人達の中に漲っています。

社会党執行部のなかにこのように変えたいという勢力がたくさんいるからだ、保守の側から言えば新保守主義の革命を自民党を解体してまでも完成させその後に新しい保守政党を作る。社会党の側から言えば護憲の社会党、闘う社会党、市民を守る社会党から脱皮したいという非常に単純な要求と重なっている。そういう人達は社会党が小さくなくても連合と蜜月の思い通りに動く政党であるならば、連合・社会党の指導部もそれでいいと言う人がいるのではないかと考える以外にないです。私個人は社会党がそのように解体していく、一四〇が次には七〇に半減していく歴史のプロセスは政治学を研究する者にとって「こんなに面白いことはない、よくよく見ておけ。世界に例のない現象が出てくる」と学生に言っている。市民の側に立てば護憲の立場に立つ政党が解体することは大変に困ったことです、大変に嘆かわしいことです。

日本の平和主義は小沢氏とは違った意味で国際協調の原点になる。大国が武力を供出して第三世界を鎮圧していくと言う国際秩序ではなくして、第三世界を中心に連帯の秩序を作っていく。第三世界では日本の平和憲法がいかに希望の星であるかの様に語られる、軍備を持たないでこれだけの経済成長ができた、軍備を大国が持たないで世界に指導的な地位を占める、そういう国家が持続する後に我々は続きたいと繰り返し言われる。日本は明治以来「脱亜入欧（だつあにゅうおう）」の歴史を繰り返し世界の強国に悟っている。

富国強兵の道を歩みその結果は御存知のとおりであり、私たちはまた同じ道を歩もうとしている。これでいいのかと本当に思います。社会党が本来の姿に立ち戻っていただきたい、護憲の社会党として再生していただきたい、その時に土井さんの時には集まった市民や女性の運動は社会党を喜んで支持すると信じて疑いません。

第二部 「全国ネットワーク」 結成総会

◇よびかけ人代表あいさつ 村山喜一（前衆議院議員・前衆議院副議長）

「毒消し」のため、たちあがるとき

三年四ヶ月衆議院副議長ということで祭り上げられて社会党に帰ってまいりましたら、今や浦島太郎でございます。いったい社会党はどうなっているのかという事で今度の選挙には出ませんでした。護憲の党社会党の私の後継者浜田健一君の当選をさせることができました。岩垂寿喜男さんを始め現役の方々もお見えですが、小選挙区制反対の闘いに関しては消極的な意思表示ではございましたが、「自民党案に反対、政府原案に反対」の意思表示のために退場を致しまして浜田君は筋を通してくれました。

彼に自分の良心にもとづく行動をして欲しいと求めましたが、十一月十四日に鹿児島県

本部は党員はそういう集會に出るはならないと言う攻撃を強めるなかで、三〇五名の方が集まって社会党の現状を憂い、我々自身が日本社会党を建て直すんだという意気込みのなかで集會を開いて共同声明（本誌第五五八号参照）を発表しました。全国の仲間の皆さんとその願いを社会党の参議院の中の闘いのなかで、また私たちの日常的な闘いのなかで実現をはかって参りたいと考えている一人であります。

社会党の仲間は街頭に立つことができないと、市民の皆さんに勇気を持って呼びかけることができないんですと言う。なぜならいつどのように変わってくるかわからない。「小選挙区制反対」と闘ってきたのに小選挙区比例並立制をやって討議で最低限と決めた二五〇を二七四で賛成せよと、所得減税の上で消費税税率をアップする、米の自由化の問題が出てきたときに街頭で訴えていることがすべて打ち消されるのではないか。社会党は信頼を失っていくなかで見えなくなっていくのではないか、街頭の市民に対する大衆運動が出来ない、市民運動が出来ないと何を基本として社会党は政治の革新をはかっていくのであるのかと言うことが見えないのであります。大衆運動や反戦平和の闘いを抜きにした社会党の姿は想像できません。

低レベルの核の廃棄物を海中に投棄してはならないという闘いを行いましたが、公明・民社・共産党に至るまで低レベルの廃棄物は海中投棄でいいじゃないかと言った。それを許さなかった社会党の闘い、プルトニウム社会の到来をさせてはならない、核の増殖には電気事業連合会も「プルトニウムは余っている」のだから作るのは止めようということろまで追い込んだ社会党の闘いの結果ではないでしょうか。今、毒を飲んでいる社会党の中枢部は頭がおかしくなっておりますが、毒消しのために我々が立ち上らなければならぬ時を迎えたと思うのであります。毒が全身を侵さないうちに護憲の党をつくりあげて日本社会党が正しい道を行けるように一生懸命頑張って全国で大きなうねりを作って参りましょう。

◇よびかけ人あいさつ 寺田熊雄（元参議院議員）

相対するイデオロギー対峙で政治はきれい

確固たる思想と固い操を持ってお集まりの皆さんに言を申し上げることを大変光栄に思っています。小選挙区制の歴史を見てみまして真先に気がつくのは片山内閣が提案した再軍備を目指した小選挙区制に対しまして、社会党が見事な闘いを演じました。ありとあらゆる不信任案を通してとうとう廃案に持ち込んだのであります。

一九七三年の田中内閣の時異常な執念で提案致しましたときに今との相違が一つあります、労働団体がまなじりを決して総評がゼネラルストライキを持って阻止すると決断した事であります。連合が細川内閣の提灯を持っていて。何と大きな違いであろうか。財界は総評を解体して日本の労働組合を羊のような従順な同盟路線に追い込んでしまった。財界・資本に奉仕する事を許したのは、不勉強な彼らの全く階級的な視点を持つことができなかった点にある。言々楽々と財界の意に総評を解体し連合路線に突っ走ってしまったのです。山岸などは党員の思想を選別し左の者はほとんど排除していく「マッカーシー」だ。ああいう者が社会党を支配してどうして社会党が護憲の政党としての操を貫くことが出来るでしょうか。

今度の小選挙区制はすべて欺瞞の連続でした。リクルート事件に端を発した政治腐敗を

何とかして根絶したいと出発しており、政治改革は政治腐敗を防止しなければなりません。腐敗とは何か、民主主義のもっとも必要として確執なる敵は金力である。財界からの財政的支援を根絶することが政治腐敗のまず第一のテーマでなければなりません。

きわめて曖昧にしてこれによって政治改革と言っているのでしょか。後輩の山花君にいてもこう言う欺瞞を看破することができなかった。一時は小選挙区制は憲法違反だと言っていましたでしょう、今は尻尾を振っていついていっているではありませんか。

山花君はどうでしょう、もちろんアメリカ大統領や大英帝国の首相と比べることはできませんが、社会党の委員長だったんですよ。べらべら能弁に喋ればいいと思っっている。ああいう党首を持つていては国民の信頼を得ることはできないんです。田辺・山花・久保・山岸というものに支配された社会党はだんだん駄目になってきた。戦前裁判官であった友人と会えば、彼らは保守的な人間ですが、彼らの妻は歴代の社会党を支持してきた。この妻たちが、「今度の社会党の態度でもう辞めた、もう推さない」と言っている。保守的なものと保守的な主張では実際の政治は汚れるんです。

茨城県知事、仙台市長、宮城県知事とかいろいろな汚職があつたが相対する思想、相対立するイデオロギーが対峙してはじめて日本の政治は綺麗になるんです。社会党の左派を切つて保守的な二大政党にする政治学では日本は本当に汚いものになり、自民党の支配した政治よりもっと悪いものになるでしょう。ではどうするのか、社会党の参議院議員に強く望みがあると思っっているんですよ、社会党のしつかりしているところを応援していくことが大事です。何とかしてくい止めることができるかもしれません。

もう一つは各地方で県連の支配権を左派が握ることです。地道な闘いを続けていけば社会党は生き残ると私は思っています。今のままなら左派は左派で社会党を抜けて新しい組織をつくるエネルギーを爆発させる事しかないと思います。何にしてもまずはくい止める、地方支部を強化する、だめならば皆が社会党を飛び出して新しい立派な政党を創りましょう。

◇アドバイザーチーム代表あいさつ 小林孝輔（青学大名誉教授）

小選挙区制は少数思想を排除

全国ネットワークではアドバイザーチームというものを設置を進めているところでありますけれども、各専門分野の方々の皆さんのご紹介を致します。

浅井基文氏（明治学院大学教授） 伊藤成彦氏（中央大教授） 近江谷左馬之介氏（元九州大学教授） 奥平康弘氏（国際キリスト教大教授） 小林直樹氏（専修大学名誉教授） 小林孝輔氏（札幌大学教授） 樋口陽一氏（東大教授） 星野安三郎氏（立正大学教授） 山内敏弘氏（独協大学教授） 伊藤誠氏（経済学者） 久野収氏（哲学者） 塚本健氏（流通経済大学教授） 宮崎義一氏（元京都大学教授） アイリン・スミスさん（核問題研究家） 高木仁三郎氏（原子力資料情報室） 山田宏二氏（労働評論家） 高島通敏氏（立教大学教授）

ここは国鉄労働会館であります、先月一ヶ月ばかり学会がドイツでありまして、そこに滞在してまいりました。ドイツの国鉄にたっぷり乗ってきました。痛切に感じたのは日本の鉄道は座席が明治以来、人の趣味趣向や便宜を考えないで二人掛けの背中合わせの

ものですが、ドイツのインターシクス・エキस्प्रेस（日本では新幹線同様）では一人乗り用の席があるんです。仕事で考えてみたりタイプライターを叩いてみたりする人もいるわけです。一人用の席が窓辺に並んでいまして片方には二人掛けの席が並んでいるし、映画でも見ることが出来るような席や六人個室の席もある。五人から六人で酒でも飲みながら旅行しようというのならそういう席も揃っている。人のこうありたいという要求に合うように作られている。お母さんが赤ん坊を抱いてくずる事などがあり、もてあます若い母親に同情する事もままあるわけですが、ドイツでは客車の三分の一が子供部屋になっているんです。それぞれの個人を大事にする考え方がそういう所にも徹底している。個々人もそれなりの責任がある訳でして、改札口は乗り降りする所にいっさいありません。

日本ではそれだけでなくただ乗りが多いのですが、改札口がなくても切符を買って列車に乗っている。個人の尊重というのは何なのか、憲法一三条のなかで全て国民は尊重されると言う規定がございます。私は現行憲法の中で最も大事な規定と思ひ、講義したり文を書いたりしている。戦争の放棄、国民主権にしても基本的人権にしてもすべて一三条の規定から発すると思うのであります。

小選挙区制は思想の一元化で「大政翼賛会」化である、少数者を切り捨てるものだと言う意見が正にそうなのでありますけれど、その基本は個人の尊重という思想を排除している事であると思うのであります。小選挙区制によって社会党が墮落する、議席がなくなると言いますが、社会党の勢力が護憲派でなくなったからなのであります、小選挙区制を廃止して従来通りしたからと言ったって社会党が伸びるとは限らないし、伸びたからと言ったって今のような状態では意味がないと思っております。

少数を排除しようとするもつとも大掛かりな思想、政治的な本源と言うものが小選挙区制であるかと思っております。これは絶対に排除すべき日本の精神構造の象徴的な事件であると捉えております。ここではつきりと選別に抗して選別された人達が当選したような社会党自体でしたらば、小選挙区制にもつと反対したかも知れません。（つづく）

コント 小選挙区制

——忘年会やクリスマス会で上演しよう——

登場人物

ナレーター 小沢二郎 子分1 子分2 細川首相 ご隠居 はっつあん
熊さん 地の声1 地の声2 地の声3

第一場 小沢二郎変身をはかる

小沢 私が自民党幹事長だった小沢二郎（こざわじろう）であります。私がいま一番大事だと考えている政治信条—それはわが国はもつともつと大国にならねばならないこと—であります。経済でこれほど大国になったんですから、政治的にも軍事的にも、世界の動きを左右できるほどの大国にならなければならぬということです。政治家にとって自分が

牛耳っている国が強くなることほど野心を満足させてくれるものはありませんから。そのためにはもっと強い政権をつくらねばなりません。総理大臣はなんでも思ったことをどんどん推し進め、政府はぐんぐん国民を引っ張っていけるようにならなければなりません。世界で一番大きな権力を持っているのは日本の首相かアメリカの大統領かといわれるくらいに、自衛隊も海外で働いてもらうんです。もちろん、憲法改正もやらなければなりません。

子分1 先生、おこころざしはわかりますが、いまは反発が大きいですよ。

地の声1 (舞台以外のところから) 小沢二郎は自民党悪政のシンボルだ！

地の声2 (同) 小沢二郎は金権腐敗のかたまりだ。

地の声3 (同) 小沢二郎は憲法改悪をめざす危険な国家主義者だ。

地の声1、2、3その他 そうだ。そうだ。

子分2 先生、おききでしょう。大変な風当たりですよ。政局の主導権を握りつづけようというのは無理ですよ。

小沢 うーん。追いつめられたと見せかけて、ひとつ大芝居を打とう。反小沢に傾いた自民党から出て、非自民の旗をあげよう。

ナレーター 六月一八日、衆議院は宮沢内閣不信任案を可決。小沢派は不信任に同調し、自民党は分裂へ。国会は解散となり総選挙へと向かうことになりました。

子分1 先生、お見事です。打った芝居が大当たりですよ。社会党の書記長が小沢の腐敗問題はとるにたりないことといたしましたよ。

子分2 連合の山岸会長も小沢さんは政治生命を賭けて自民党を分裂させたんだから、みそぎはすんだと言ってます。

子分1 新生党という名前も評判は上々ですよ。新しいというのがついているのがいいですよ。もう、金権腐敗のニオイなくなったようですよ。

子分2 (例のコマーシャルのリズムで) タンスにゴン。におわないのが新しい。タンスにゴン。うちは名前が新しい。

小沢 (急にムツとして) はしゃぐのはやめろ。そのコマーシャル、あれおじいちゃん死んでる、つてやつだろ。縁起でもないよ。オレ心臓悪いんだぞ。

そうそう。金を渡す約束だったな。ほれ、二千万だよ。だが届け出るのは五百万だよ、忘れるんじゃないよ。

子分1 ありがとうございます。(退場)

小沢 (つぶやくように) うまい具合に舞台がまわったな。金権腐敗の小沢二郎は今や新しい政治を切りひらく小沢二郎だからな。本当に金権の小沢、強権の小沢というニオイは消えたのかな。(ウデの辺りを臭ってみる)……だが、もうちょっと決定的な看板がほしいな。……そうだ、熊本の殿様を使おう。羽田君には悪いが殿様の方がずっと効果があるぞ。日本人は高貴な上流人が好きだからな。皇太子の次は細川の殿様。タイミングも上々。オレはさしずめ、(カミシモをつけ、ミエをきって) 殿様あやつる悪家老！

第二場 三人で瓦版を読む

ナレーター ご隠居さん、はっつあん、熊さん、三人で瓦版を読む。

熊さん ご隠居さん、そこところで瓦版号外を売っていたんで買ってきましたよ。

ご隠居さん そんなもの買ってこなくたって、書いてあることはわかっているよ。細川首相が決まったっていうんだらう。岡崎さん、岩垂さんが細川さんに投票しなかったっていうことも知っているよ。

はつつあん 筋をおしたんだね岡崎さんらは。選挙の時に訴えたとおりに行動したんだね。えらいね。だが瓦版には細川さんも小選挙区制もえらくいいことみてえに書いてありますよ。

熊さん とんでもねえ。小選挙区制とくらあ、天下の悪法だよ。

(棒読みふうに) 小選挙区制とは、一つの選挙区の定数を一として一番得票が多かった者が当選する制度です。小選挙区がいかに民意を正確に反映しないものか、少し考えただけですぐ分かります。たとえば一つの選挙区に実力が接近する五人の候補者が立候補し、Aが三%、Bが三%、Cが六%、Dが六%、Eが七%の得票率を得た場合、B以下の毛%は「死に票」となり、これらの候補者に投票した人たちの意志は政治に反映されなくなります。

ご隠居さん 見直したね。熊さん。いつそんなに勉強したんだね。

はつつあん ご隠居さん、だまされちゃあいけません。こいつあね、小選挙区比例代表並立制に反対する小選挙区制反対国民会議発行の「ストップ小選挙区制」というパンフレットをもって字づらだけの丸暗記をしているだけですよ。

ご隠居さん 熊さん、あなたが説明したとおり、小選挙区制は民主的な選挙制度としては問題があるね。しかし、そこにいく前の問題もあるんだよ。国民が求めているのは腐敗防止なのに、関係のない選挙制度にすりかえてしまっていることだ。たちの悪いごまかしだ。

熊さん 洋食を食いたいのに、中華を出してくるような…。

はつつあん 違う。違う。そんなもんじゃない。熊さんの洋食はカレーライスだし、中華はラーメンだ。熊さんなら平気で両方食っちゃまって満足するだらう。小選挙区のすりかえは薬がほしいのに毒を出してくるようなものだ。

ご隠居さん 今度ははつつあんが立派なことを言ったね。毒を食っちゃいけないよ。

熊さん 衆議院の修正につづいて、参議院でも修正するっていう話があるでしょ。修正とというのは毒に砂糖をまぶすようなものですね。でも毒は毒ですよ。

ご隠居さん きょうはどうしたんだね、二人ともやけにさえてるね。衆議院で社会党では岡崎さんを含め七人が反対したよ。参議院でもっとたくさん反対者が出るだらう。国民は毒、食えませんってね。

はつつあん このコントを一人でやったら毒食えん。ドククエン。ドクエンカイ。